

市民と天然記念物をつなぐイベント・観察会の実施

神戸大学保全生態学研究会
代表：修士2年 川田直人
指導教員：石井弘明 准教授

活動のねらい

都市緑地において、人と緑が共生するためには、枝の越境や落下、災害による倒木などの危険を回避するため、樹木の剪定や伐採の必要性が生じる。社寺林など文化財指定された都市緑地においては、管理施業と生態系保全、住民の理解をどのように実現するかが、重要な課題である。本活動では、学生が学術調査にもとづいた管理手法を提案するとともに、市民と行政・所有者の仲介役として自然観察会などの啓発活動を実施する。

森林動態の調査

6～12月：各都市緑地での学術調査



神戸市キーナの森（里山保全地区）



神戸ゴルフ倶楽部（多様性保全型ゴルフ場）

6月から12月にかけて、太山寺原生林（兵庫県天然記念物）、西宮神社社叢（西宮市天然記念物）、神戸市キーナの森（里山保全地区）、神戸ゴルフ倶楽部（多様性保全型ゴルフ場）における学術調査を実施した。

普及・啓蒙活動

11月：学生ボランティアとの森林観察・管理



本大学の学生5名を対象として**孤立林の問題や重要性について理解を深めてもらう**ことを目的に、**西宮神社**に生息する外来種駆除や林内清掃を行った。

今後の展望

- 引き続き各調査地において詳しい学術調査を行い、都市緑地の保全・管理手法の提案に努める。
- コロナ収束後は、西宮神社以外でも学外の協力者も交えた市民向けの講義やイベントを行い、天然記念物や都市林に関しての普及・啓蒙活動を行う。